



老朽施設の再生まで一任できる太陽光発電のフロンティア企業。

夏は熱波、冬は寒波。もはや毎年の恒例行事のような尋常ならざる「地球沸騰の時代」の現実を目の当たりにするにつれ、再生可能エネルギーへの転換はもはや待ったなしと再認識させられる。

いまや各家庭でも常識と化した太陽光発電だが、その歴史の端緒は19世紀の米国にまで遡る。日本では1974年のいわゆるサンシャイン計画、あるいは1990年代の地球温暖化問題の議論などでたびたびスポットを浴びたが、現在の潮流は2009年にスタートした余剰電力買取制度が契機だろう。これを境に想定以上に太陽光発電設備が急増、2017年には法改正を余儀なくされるほど急速に普及。再生可能エネルギーへの認識が一気に深まったことは喜ばしいが、そろそろ新たな問題が浮上しつつある。それは、太陽光発電所の老朽化だ。

余剰電力買取制度から14年  
老朽化に直面する太陽光発電



保守・管理のサポートに加えて  
発電所の「再生」にも注力

2009年創業のブルースカイソーラー株式会社は、太陽光発電事業の話題性が先行していた当時から実務面を支えてきたフロンティア的存在だ。当初から太陽光発電所の企画や設計施工から運営、保守管理までの工程をトータルに担い、発電所の規模や定格容量はともに関内トップクラスを維持。名実ともに持続可能な自然エネルギーへのシフトを牽引してきた。

コンディショナーの交換で低下した発電効率を取り戻す設備のリパリングへの需要が大きく増しているという。

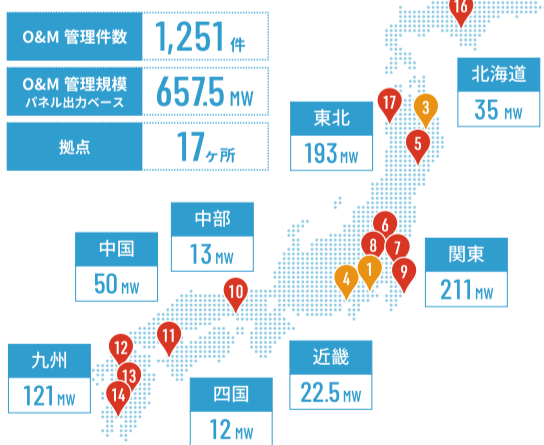
過去14年間の開発・保守・管理ノウハウを蓄積してきた同社は、住宅で言うリノベーションのニーズに対応。再生事業実施件数は実に100件超、15万kw超の実績を誇る。稼働中の施設設備の状況にもよるが、同社によれば最大で年間約30%もの発電効率向上も可能とか。また、発電所自体の長寿命化やメンテナンス負担の軽減など多様なメリットをもたらす。年数が経過した発電所のオーナーなら、そろそろ検討する価値はあるだろう。

オーナーの意向とその土地のポテンシャルに相応しい太陽光発電所の建設とともに、同社が力を入れているのがO&M(オペレーション&メンテナンス)業務だ。発電設備を効率的かつ長期的に運用・保守するサポートを目的とした業務だが、近年はさらにサービス範囲を拡大。完成から10年以上を経た発電所が続出する中、太陽光パネルやパワー

昨年末には、大阪ガスとJ-A三井エナジーソリューションズの3社で、再生可能エネルギーに関わる上場インフラファンド組成を手がける資産運用会社への共同出資を発表。太陽光発電設備を運営するオーナーだけでなく、土地活用をお考えの方も注目の企業だ。

Biz Life Style Pick up >>>

全国17か所に自社営業所を運営



O&Mだけで約1251か所、657MW以上にも及ぶ業務を受託するブルースカイソーラー。本社および全国17箇所の営業所を配置し、義務づけられている定期メンテナンスから故障時の修理まで、あらゆる状況に対応する。スタッフは専任技術者を含め約60名を確保。下請けに頼らないサービスを展開中だ。

ビズスタ特典

右記、アンケートフォームにご回答頂いた方の中から  
抽選でオリジナルのクリアファイル2点、メモ帳1点の  
3点セットを3名様にプレゼント!

アンケートフォームはこちらから▶



ブルースカイソーラー株式会社

東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター 8F  
TEL.03-6261-3384 https://www.blueskysolar.co.jp/

